



【ご挨拶～サミットに寄せて～】

このたびは山口県山口市において第19回雪舟サミットが盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

画聖雪舟が足跡を残したまちが集うこの雪舟サミットをきっかけに、6市の交流がより一層深まり、情報交換の輪が広がることを願っています。また、相互の連携が魅力あるまちづくりに活かせるよう願っています。

山口市長様をはじめ、本サミット開催にあたりご尽力いただきました実行委員会の皆様に感謝申し上げます。



井原市長 大舌 勲

【市の紹介】

井原市は岡山県の西南部にある人口約4万人のまちです。

市内の南部を近世山陽道が通り交通の要衝として栄え、また江戸時代後期は市域の多くが一橋領となり、一橋家の家臣であった渋沢栄一が何度も訪れています。

また古くから繊維産業が盛んで、デニム生地の工場、ジーンズの縫製や加工工場が集まる一大産地であり、国産デニム発祥の地と言われています。

芳井町には雪舟が没したと伝えられる臨済宗仏通寺派の禅寺・大月山重玄寺があります。現在の寺院は当時の鐘楼門と石門を移転し再建しています。また、重玄寺開山千畝周竹の語録『也足外集』の中に雪舟と千畝和尚に親交があった可能性を示す記述が確認され、井原市と雪舟を結びつける史料となっています。

【雪舟とのつながり】

雪舟が没したと伝えられる大月山重玄寺は、嘉吉元年(1441)千畝周竹によって開かれた臨済宗仏通寺派の禅寺です。重玄寺は創建以来数度の火災にあったとされ、昭和30年の火災では土蔵と鐘楼門を残して全焼しました。現在の寺院は昭和49年に残った鐘楼門と石門等を山裾の西吉井に移転し、再建されました。

地元では雪舟が芳井町天神山の重玄寺で没したと伝えられており、『吉備物語』や『東福寺誌』など近世地誌に「備中の重玄寺で雪舟が没した」と記されています。また平成8年には、重玄寺開山千畝周竹の語録『也足外集』の中に雪舟と千畝和尚に親交があった可能性を示す記述が確認され、井原市と雪舟を結びつける史料として注目されています。天神山の重玄寺跡は、昭和55年、芳井町指定の史跡になり、重玄寺跡雪舟終焉の碑が建立されています。